

民間重症児施設開園 10 周年式典に出席して

仙台にある民間重症児施設が、開園 10 周年を迎え、法人主催の記念式典に出席させていただきました。

思い起こせば、平成 2 年から重症児通園モデル事業が始まる情報を耳にしたその数年前だったと思うが、宮城県重症児を守る会の事務所を訪ねた。訪問の目的は、役員の方々に、勤務先の国療に通園施設を併設できるように、県守る会として側面からの支援をお願いすることであった。当時の会長とあれこれ話す中で、「いっそ、民間重症児施設を作ろうか」との発言があった。もう、モデル事業の話ではなくなり、「施設を作っていたきたい」とお願いした。

当時、東北では民間重症児施設は無かった。自分は国療の職員ではあったが、民間施設が出来、お互いに影響し合う中で、重症児の療育は充実していくのでないか、また、重症児の療育に関し、官制では難しい機動性を民間施設では発揮し易いのでないかとの想いがあった。

会長は、その数年後社会福祉法人を設立し、私財を投入して民間重症児施設を開園（平成 5 年 4 月）された。僕にも、建設委員会に顔を出す機会を数回作っていただいた。

現在はご高齢になられ、会長職は譲られているが、法人の理事長として今も活躍されている。いろんな会合で顔を合わすと、理事長がわざわざ僕に近づいて来られ、声をかけてくださることに、いつも恐縮している（今リ-タの僕へのこの式典への案内も、わざわざ理事長が係りの方へ指示して下さったよう……）。この度の開園 10 周年を迎え、理事長の心中はいかばかりかと推察できるだけに、式典でご健勝なお姿を拝見でることを楽しみに出席したが、数日前から体調を崩されたとかでお会い出来なかった。

この式典には、理事長の優しいお気持ちから、在宅の重症児の親子も多数招かれており、何ともほのぼのとした雰囲気であった。あの 10 数年前のお願いに行った折りの話とも繋がっていることかなとの思いもあるからか、僕は僕なりに感慨深いものがあった。

時あたかも 10 周年を祝うがごとく、来年度からは重症児通園事業施設 A 型を始められるようで、建築も進んでいるようである。

こうして、施設入所の重症児だけでなく在宅重症児の療育にも、また、重症児問題を通して社会の福祉思想の普及・育成に、今後益々その拠点としてこの施設が機能充実・拡充することを願っているし、機会があれば、陰ながら色々協力させていただきたいと思っている。

（2003 年 10 月 22 日 記）